

同窓会会報
第10号

昭和43年12月1日
発行所 茨城県東茨城郡
内原町龍崎5965
鯉淵学園同窓会
印刷所 新いばらきタイムス社

昭和四十三・四十四年度

事業中間報告

昨年十一月三日の同窓会大会で現在の執行部、事務局員が選出されて満一カ年を経過致しました。事業は同大会の議決にもとずいて行なわれましたが、諸物価の値上げの影響をうけ、必ずしも予算通りにいかず、過日中間決算を行ない、常任委員会で種々御検討願いました。支部および会員諸氏にも御一覽いただき、御批判、御意見、御指導をお願いしたく存じます。

事業中間報告

今年度前半（四十二年十月～四十二年九月）においては、昨年十一月の大会議決にもとずき、主として次の事業を行なっていました。

一、会報の発行

第八号 四十二年十二月一日発行、同十五日発送。

第九号 四十三年六月一日発行、同三日発送。

二、鯉淵学園創立二十周年記念事業資金募金案（別記）。

三、同窓会会員名簿の発行（別記）。

四、中央協同組合学園同窓の検討

この問題が前回の同窓会大会において、議題とされた経緯は、同窓会報第八号にのべられている。大会では種々論議があったが、結局大会出席者のみで「農協教育整備案」に対する態度を決めるわけにはいかない。アンケート調査などによって、より多くの同窓生の意見を聴取することが大切である。聴取方法については常任委員会に一任する、ということになっていた。

そのための常任委員会は十二月九日に開催された。しかしそこでは、各会員にこの問題の起りから農協教育整備案の問

題点を文書をもって充分理解していただくことは非常にむずかしい。たとえばそんな状態でアンケート調査をして会員の意見を聴取できたとしても、中央学園設立に関する具体的なとりきめは今後に残されており、同窓会執行部がその調査結果に轉られ、中央学園の今後の決定に対応できないようになっては、同窓会がこの問題をとりあげている本意に反することとも生じうる。したがって、アンケート調査はしばらく見合わせ、その代り執行部が手分けして各支部会に出席し、よくその内容を説明して意見を聞いてくるの

同窓会会員名簿発行なる

予部若干あり

九月一日発行を目指して、三月下旬からこの仕事にとりかかりましたが、予定より二カ月半遅れた十一月十六日、ようやく陽の目をみることになりました。予約下さった方には随分心配と御迷惑をおかけ致しました。深くお詫び致します。

三月～四月は主としてアルバイトにより、二十一～二十五期（二十四・五期は在學生）、道教一～四期（四期は在學生）および索引の原簿作りを致しました。

五月五日、事務局原簿を支部に送り、支部名簿との照合および住所不明者の調査を依頼しました。一方事務局では過去の振替用紙、二、三の先生方に当て

が好ましい、ということになった。そして一方においては同窓会自身において、鯉淵学園における教育内容を充分整理しておき、いつでも説明できるようにしておくと同時に将来の農業教育のあり方を研究しておいて、いつでも意見をのべられるようにしておくことが大切である、ということになった。

一月二十七日、東京支部でお集り下さるといので、会長、副会長および前事務局長に出席してもらった。そこでの意見の要旨は、農民教育協会ならびに同窓

（読者上段へつ）

られた四十三年度年賀状による名簿住所の照合、また前名簿で「本籍」と断わり書きをした者、および十二月（昨年）と六月に発送した会報の返送者約三〇〇名のリストを作り、先生方に新住所の調査を依頼しました。また、これらの人々の新住所は別に、本人の本籍地役場戸籍係、近住同窓生、当時の友達、職場などにも調査を依頼して参りました。

このうち、最も回収率のよかったのが、本籍地役場に問い合わせたもので、九〇％に達したものと思っております。支部名簿は新潟、東京、北海道、佐賀、広

（三頁へつ）

(二頁より終)

島、熊本、兵庫、富山、福井、秋田、高知、静岡、和歌山、岩手、島根、岡山の一六支部よりお送りいただきました。また事務局よりお願いした一般別窓生よりも沢山の返信をいただきました。返信を受取った当時は、連日その整理に追われており、札状を差上げれず失礼しておりましたが、ここに新ためて厚く御礼申し上げます。



原稿を印刷所に渡したのが、八月七日でした。

しかし、支部会は八月頃もたれたところが多かったらしく、その名簿のところが若干遅れたため、校正途中で原稿を大幅に訂正することになり、印刷方式がタイプオフセットであったため、印刷所における訂正に大変な時間を要することとなりました。途中印刷所より「原稿

を訂正するとはけしからん」と何度か苦情を受けましたが「支部からの名簿で住所が違ってるとわかっていながら印刷にするわけにいかない。遅れても是非訂正してほしい」とお願いしていただきました。したがって初校が八月、再校が九月、最終校の終わったのが十月二十六日になりました。これで印刷になるかと思っていたところ、三校の間に原紙の写真正がずらずだになったため、これをきれいな



写真にとりなおし、さらに焼付けして印刷しなければならぬと、結局出来上りが、十一月十六日(当日常任委員会が開催された)になりました。初校、再校はアルパイトの手も借りましたが、事務局のさばきも悪く、大変御迷惑をおかけすることになりました。

内容は次の通りで、少し改ためてみました。

寮歌(新しく楽譜を入れた)

目次

支部別名簿(期別・氏名・郵便番号・住所・職業または勤務先、住所は約六〇%変更になりました)

特別会員名簿(同窓会顧問、農林教育協会顧問・役員、同理事長室職員、同研修所職員、同調査園職員、同日教職員)

同窓会会則

索引目次(色付用紙)

索引(期別索引をアイウエオ索引に変更しました)

会員の都道府県別分布表

買数二〇五頁(本文一五五、索引四五・その他五)

発行経費の主なものは、次の通りです。

合計 五一、一八五

印刷費 四〇、〇〇〇

人件費 五六、三五〇

通信費 六、六九〇

事務費 四〇〇

名簿送料 三九、七四五

印刷部数 一、七〇〇

その基礎数字は次の通りです。

配布数(無料)七二九

在学生五五二(入学期入会金納入者)、入会金後納者八四(通一・二・三期の一部)、支部四七、同窓会役員二一、学園部所ならびに教職員二八

予約申込者 一七六

次年度以降配布予定 五五〇

予部 二四五

予部は、希望者に一冊五〇円でお分け致します。希望者が非常に多い場合は、写真版を保存してありますので、再版もできます。

名簿作成に当たっては、できうる限りの手を尽したつもりでしたが、でき上ったものをみると、方々に不体なところや、誤植があり、また「おれの住所間違っているぞ」というのがあって、責任者として申し訳なく、自身がかかりもしております。そんな箇所はほぼ訂正してゆきたいと思っておりますので、御気付の点は是非お教え下さいませう、また今後住所変更された方は、至急事務局までお知らせ下さるようお願い致します。

学園人事移動

阿久津 信 嘱託職員	9・30
阿久津 信 臨時嘱託	10・1
阿久津 信 臨時嘱託	10・1
阿久津 信 臨時嘱託	10・1

電話番号の変更

内原地区電話の自動化に伴い、学園電話番号が次の通り変更になりました。
内原(〇二九二五九)二八一一番

鯉淵学園創立二十周年記念事業

資金募金事業報告

前号で報告致しましたように、二十周年記念事業は、本年四月六日の記念会館竣工式をもって終了致しました。しかし、資金が不足しているというところで、募金はその後も続けられてきましたが、ようやく目標額に達したので、四十三・四十四年度の事業報告、ならびに決算、および本事業の総決算を報告致します。

【昭和四十三・四十四年度事業報告】

第八回同窓会大会における議決にしたがい、昨年十一月十八日に常任委員会を開催、特別募金および、追加募金の方法について審議されました。特別募金については一〇〇期卒業生全員に行ない、このうち特に多額を期待できそうな卒業生約二五〇名に対し、五千円と三万円の範囲で額を示してお願ひすること、追加募金は一〇〇期卒業生に対して応募を呼びかけることに決まり、特別募金趣意書ならびに追加募金依頼文書は、十二月七日に発送致しました。

また、本年三月十九日、二十周年事業委員会が三月十五日付で、事業資金の決算をした結果、約七〇万円の不足が見込まれるとして、農民教育協合理事長宛を通じ、同窓会に対し、その半分の三五万円（後日三十万円に減額された）の再募

金の要請があった。会長・副会長・事務局協議の結果、各支部に平均一百万円宛割当て、この事業最後のお願ひとして再募金協力を依頼することにし、五月四日依頼状を発送致しました。

本事業は、昭和三十九年十一月に発足し、満四十年にわたって行なわれてきましたが、四十年目の今年度においても別表のように非常に多額の応募をいただきました。これひとえに会員諸氏の御理解ある熱心な母校愛と支部活動の賜と思えます。このことは、関係者に良く伝え、その意のあるところは今後の学園運営においても充分反映させていただくようお願いしたいと思っております。

この期間に応募下さった方は同窓会級一、二八〇名、総務課扱い（通数）二〇〇名に達しました。また四十年來の総応募者数、同窓会扱い一、五六一名（領収証番号・再応募者を除く）で敷てある）総務課扱い六五〇名、合計二、二一一名全同窓生数の七二％に達しました。

また、神奈川、広島、新潟、福井、兵庫、茨城、静岡、佐賀、鳥取、鳥取、愛媛、高知支部からは、特に積極的な御協力をいただきました。御送金下さった時は充分な礼状を差上げられずにおりました

【総 決 算】
また、四十年ないし今年十一月までの収支は次表の通りになりました。

【同 決 算 報 告】
今年度の収支は次表の通りです。

【同 決 算 報 告】
今年度の収支は次表の通りです。

収 入	42.10.1 ~43.3.15	3.15 ~11.10	合 計
	基 金	306,835	300,683
20年史代	50,300	18,200	68,500
合 計	357,135	318,883	676,018

支 出	
印刷費	55,100
事務費	10,146
通信費	28,720
人件費	21,800
合 計	115,766

他に同窓生として、通数4期生200名より20万円の応募がありました。（総務課扱い）

収 入		金 額
基 金	20年史代	1,892,966
		341,000
合 計		2,233,966

支 出		金 額
印刷費	事務費	162,300
通信費	費	32,236
費	費	123,695
費	費	5,630
費	費	57,000
費	費	42,950
合 計		423,811

以上の寄付金および、二十周年史代は二十周年委員会に対し、一月三十一日に一〇〇万円、七月十日に五〇六、五二〇円ずつにお渡ししましたし、残る三〇三、六四三円も早急にお渡しして三十九年以來の二十周年記念事業に終符をうちたいと思っております。

「中央協同組合学園」

設立用地決まる

昨年暮に中央学園設立幹事会ならびに事務局が設置されたから、具体的な設立

準備が検討されてきた。しかし、かんじんの用地が決まらなかったため、その内

八五、五八〇、付帯工事二四、四六四、
内部設備八、五五五)、内第一年度分は
延面積三八三坪(四〇名収容)、工費は
一、六六〇千円(単価三〇、三千円)
資金計画は農林省補助金七三、五四八
千円、自己負担金四五、〇五二千円(学
生負担金二一、五二九、中央団体負担金

支部だより

岩手県支部

去る六月二十一日午後六
時より、盛岡市グランドホ
テルにおいて、岩手県支部
会を開催致しましたので、
その様子を お伝え 致しま
す。丁度、鞍田学園長が農
農協中央会の常勤理事研修
会の講師として来盛されま
した機会に、県下の同窓生
全員に通知しました。学園
長を囲んで楽しい一日を過
すことが目的であったが、
出席者は連絡のあった三〇
名中二名でした。それぞ
れ仕事熱心のため、急に都
合がつかなくなったものと
思われます。



岩手県支部会

に学生に戻った気持ちになりました。ま
た、支部長の四間の寛裕さんより、同窓
会費未納者は速やかに学園登録のため納
入するよう要請があり、さらに当日は、

名簿作成上住所確認のために、県下全同
窓生に案内したわけですが、欠席者のう
ち住所、勤務先が変更になった会員があ
ったなら、連絡するよう要請があった。
最後に写真をとり、「前列右より萩野栄二
(一期)、学園長、農協中央会新宮指
導部長及川氏、日向道治(一)、萩野孝
之(三)、高橋憲子(23)、中設、道下
喜美男(13)、平田正(13)、小川昭伍
(5)、杉本文吾(5)、吉田(藤原)
孝市(19)、加藤孝雄(20)、本間早(23)、
相川隆造(23)、後列、熊谷豊彦
(20)、千葉直志(18)、大塚京三(13)
(阿部豊(9)、廣野武(4)、部須
野草(5)、飯塚正人(22)、斎藤裕夫
(17)、喜歌を合唱し、万才を三唱し
て閉会した。出席者が少なかったが、内
容は全員出席したような盛大な同窓会で
あったことを申し添えます。

(17期、斎藤裕夫記)

島根県支部

(八月二十四、五日松江市14期小松原
照夫氏の新居で開催された。支部長8期
富水好正氏)
島根県の行政、農協のメカ松江市に
籍を置くこと、同窓会の関係などを世話し
ないでいる気持ちにもなれず、富水、中村
、小松原、星また川本町の竹下氏などと
相談していた。……略……急なことである
から出席が事前には提出出来ず……となる
と、一流どころで一流業者でも予約して
おけば二、三人で二〇人前も願うことに

なる。わが家なら大丈夫と思っ。たから
だ。

略……土曜日、雨降り、この分だと野
球とかその他行動範囲は狭まるから、出
席が増すと思う。午後三時、星野芳博君
(22) が来て指輪など本格的にやってく
れる。やがて富水会長が、そして永島哲
雄君(23)、夕方になると自家用車が次
々とやってくる。名も顔も知れないから
ヨーと声をかけるのみ。駐車場に納め
て来るや、名を聞いて名札をつける。そ
れで始めて名がわかるんだからおかしな
ものである。竹下盛雄氏(9) 岡本可か
ら雨がかりの道を車をどうだらけにして
新車ピカピカの石田一秀氏(13) や藤藤
孝氏(23)、勝田力氏(21)、オートバ
イで安来市から三浦毅氏(12)、中古車
でもエレカント車は仙石晃氏(20)、ハ
イヤで乗りつけた岡本孝夫氏(14)、
紅一点の長谷川典子嬢(一年生)、三浦
(寺戸) 恭治氏(13)、遠路美都町から
山根邦夫氏(18)、時間の中から「ここ
ですか？」と尋ねて入る佐藤貞之氏(23)。
中村孝昭氏(11) は早目から来て
受け付け名札つけに、てんてこまい。長谷
川嬢と星野君は小松原妻氏と共に、炊事
網事と大忙し。永島君は風呂に次々と押
し込めること専門……替りた揃いのゆか
たを着てビール、酒の林立する前で、富
水会長のご挨拶。卒業年代も宝れ所も別
々で、また勤め場も生活の場も別々、そ
れなのに。略……富水会長の隠微しげさ
げ、三浦氏の安来策、遠藤氏はどじまう
すくい踊り、熊鷹根太郎さん踊り……石

田、竹下両氏は口をとがらしてビジョンを論ずる。若手は同期の極とか、岡本氏は浜田名物を持参して珍味充分。飲むほどに酔うほどに……。午前三時、暴風機のみ残して夢の園にズラリ一五名並んで出発。このふとんもまた借りものなり。……以下略。(この文は支部会の状況を小松原氏が「島根県支部情報」をもってお知らせ下さったものなから、事務局が抜すいたしたものです。写真を三葉お送りいただきましたが、カラーのため、印刷にするとほけるとかで割愛致しました。)

静岡県支部

(前略)
去る八月二十五日、静岡学園同窓会静岡支部総会(第二回)という、いかめしい名称のもとに予定どおり開催できました。
出席者は当初の予定より若干減り一九名でしたが、二年ぶりの集まりとあって、終始和気あいあいのうちに別紙次第で進行しました。すなわち、小生の開会挨拶に始まり、山下勇(二期)支部長の挨拶、勝又完治(13)幹事から経過報告をしたあと、出席者の自己紹介、続いて議長に山下支部長を選出して議事に入りました。
まず、これまで設けられてなかった支部規約と年額五〇〇円金費による大規模(ア)な予算書上程、一部を修正して可決した。次いで、本部からの依頼事項

(1)会費の納入、(2)二〇周年記念事業に伴う追加寄付について、(3)学園併合の問題について、小生から議題を提案、討論致しました。(1)については、支部会費と一緒に徴収納入すべきですが、規約制定当初からこれを実施することは難点があり、自分の間断々に納入していただくことになりましたので、悪しからずご了承下さい。また(2)の追加募金については、席上お願いし各自応募していただくことになりました。なお、(1)(2)については、今後支部通信等で全員に呼びかける予定ですので申し添えます。例に引いては、長い時間をかけて議論しましたが、結論的には次の通り要約できると思いますが、まず合併の意義がわからない。また今後の方針として具体的内容が何一つ分らない。したがって、同窓会報による経過報告だけでもいい。議論の仕様が、基本的なことだけは云える。自分達の卒業した学園はいつまでも懐しく残したい。そして、静岡の前身が幾度か名称を変えてきたが、あくまで静岡の主体性が残り、組織が大きくなることなら合併も賛成である。合併によって相手側に全く飲みこまれてしまってはならない。静岡の伝統の長さも充分考慮されたい。最近の静岡は農場の縮少をはじめ、考え方も小さくなってきているように見える。また聞くところによると、この合併については学園内部で賛否両論があり、複雑化しているようだが、もしそうであるならば、まず学園内の思想統一からして、かからないと良い結果にはならないので

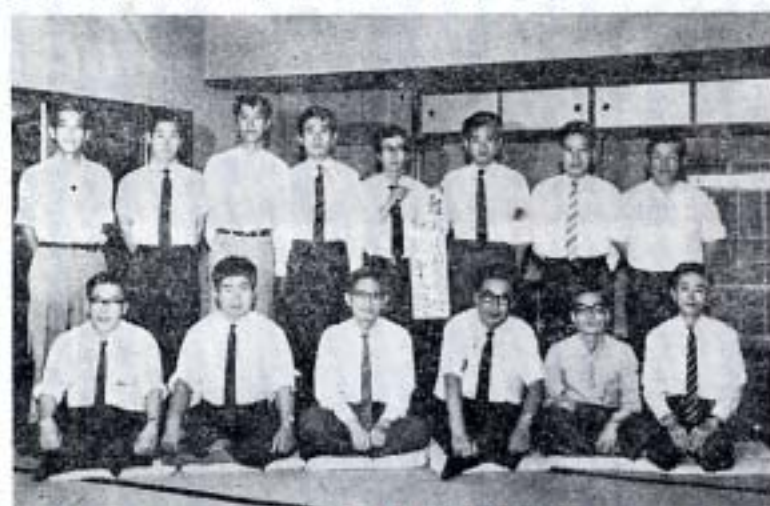
はないか。次に、役員と事務局員の改選についてですが、ほぼ再選で次の通り決定しました。
支部長 山下 勇(1)
副支部長 米倉 豊治(2)
今村 逸雄(4)
監 事 内山 澄治(9)
事務局員 清水 一昌(11)
勝又 完次(13)
村田 和彦(11)
開会も若干遅れましたが、懇談会に入ったのは二時近くで、それから飲みや歌えて、解散は五時少し前でした。
今後は毎年八月中旬の日曜日に支部総会を開くこと、また二年に一回の同窓会大会に出席する旅費が正式に予算化したことお知らせし、報告と致します。
(静岡県農政課勤務、11期・村田和彦)

和歌山県支部

九月二十八、二十九日の両日に行なわれる、近畿農政局主催の青少年教育研修会と和歌山県農林部主催の普及事業二〇周年記念行事に、講師として学園長兼田先生がお見えになるというニュースを手にしたのは、八月下旬であったと思う。折角のチャンスなので、久しぶりに同窓会を開き、一人でも多く先生と話し合う機会がえられるのなら……というので、三期の倉沢氏、山本氏と相談して九月の初めに名簿をたよりに通知を出した。そのあと早速に入っている宮本、清上(二十三期)両君に会い、協力をおねがいし

一方では二十七日のスケジュールにつき柴田(二十二期)君とも連絡をとりつつ、当日を楽しみに指を折ったのである。前日までに出席を約束してきた方は十四名であったが、当日になって土肥(六期)君が、農業祭のために出席できずうにないという残念な電話があった。午後二時、指定された和歌山城内の「あたりや」に出向くとすでに十二名が集まり、開会をまつばかりであった。司会を定評のある倉沢氏にお願いした。まず先生から学園の近況と将来についての話があり、在園生が伝統を受けつぎながら頑張っているとの状況をきき、一同うれしく思ったのである。終戦直後に静岡で育ったわれわれ六期以前のもものは、現在の裏の様はまさに驚異なのであろうか。三期の山本氏亀井氏から、ときおりおどろきの声もれた。先生のお話のあと、軽妙な司会によって各自、自己紹介をして現在の仕事と活動状況を先生に報告し、あわせて同窓生諸氏に今後のつきあいを求めた。一期の副井さんは県立田辺技能学校の次長さん。目下油絵を勉強中とのこと。二十三期の人々をみて、まるで俺達の息子のようにだと賞賛充分である。同じく一期の早田さんは、国民体育大会の柔道の監督とのこと。倉庫事務所勤務されている。「白浜へ向う途中だからいつでもやって来い」と呼びかけられ拍手がおこる。三期の山本さんは最近、みかん課の加工係長になられたばかりである。音楽に堪能な娘さんが二人ある。「後輩諸君、たまには家へ遊びに来い、

娘はただし中学生」と、やられたのもおもしろい。亀井さん(三期)はいま保健所につとめていられるとのこと。それも精神病患者の調査を支持っておられると聞いた。司会の倉沢さんは食糧事務所。欠席されたが森井さん(県庁)も三期で不思議に三期生が多い。とくにうれしかったのは、農林中央金庫和歌山事務所に来ておられる尾立(七期)君が出席されたことである。私個人としては、兵庫県の同窓会で一度会ったさうり、まさに十年目の再会であった。調査役として貸付の仕事をしておられると聞いた。このあと十五期の尾阪、尾地君まで卒業生が多い。(当日は欠席)そしてそのあと、また二十三期まで切れる。そして二十三期生は多い。松浦君が「このまま先生と一緒に瀬田へ帰りたい」と発言したのは正直いってびっくりした。角陣にマスク、ヘルメットの学生や教授の顔さえ知らずに卒業していく大学生などに聞かせたいもの。これが経済学部の、い所なのだと思つたのは、私一人ではない筈である。宮本君(経済連)、清上(共済連)もともにはつらつとして自己紹介をした。若くて気がよい。鈴木(二期三期)君はただ一人の農業日誌君との



和歌山県支福会

こと、経営者としての貫録はもはや一介のサラリーマンをしのぐものを感じさせられる。異色の存在は柴田君(二十二期)である。秋田原の出身ながら相模日本一の松河農協に乞われて来ているとのこと。自己紹介に先輩から「しっかりやれ」の

と、寮回り、ファイヤーストーム、女子寮の話など思ひ出語はつきない。びっくりするくらい時間のたつのが早い。午後六時、副井先輩の発想で記念撮影をした。そのあと前を組んで声たからかに寮歌を合唱、学園の発展と先生の御活躍を期し、ばんざいを三唱して幕を閉じた。来年の八月頃に休暇帰省中の在園生との顔つなぎを兼ねて同窓会を開こうと約束した。再会を期し、それぞれ夕ぐれの帰途についたが、なにかこのまま別れてしまふのが心残りのような後姿であった。同窓生の諸君、和歌山県の道中は写真のように元気で頑張っています。【写真は前列右より山本寿和(3)、倉沢功(3)、副井修久(1)、学園長、早田仁(1)、亀井(芝)恒蔵(3)、後列右より伊福靖(4)、足立優(7)、柴田君(22)、清上昌孝(23)、鈴木隆文(23)、松浦義人(23)、宮本功(23)、藤井(今井)文信(4)の各氏】
文責一四期・伊福靖(経済連)

伊福氏

ますます大活躍

十一月九日の「和歌山新報」は「この人と三十分」欄で、伊福靖氏の活躍ぶりを次のように紹介している。「伊福さんは全国で十人、西日本で二人、本県ではただ一人の科学技術士(農業部門)である。絶え間のない研究に支えられた園圃は、次々と新しい。味覚を市井へおくりだした。農協内部でも食品開発のホープと目されている人である」。

伊福氏は学園を二十四年三月卒業(4期)され、直ちに兵庫県農業試験場に勤務し、食品加工の研究をしておられた。兵庫県農試では、主として強化味噌製造の研究(三十五年学園で特別講義をお願ひした)、桃・柿の加工に関する研究で実績をあげ、また漬物・玉子豆腐・ブリ

まうのが心残りのような後姿であった。同窓生の諸君、和歌山県の道中は写真のように元気で頑張っています。【写真は前列右より山本寿和(3)、倉沢功(3)、副井修久(1)、学園長、早田仁(1)、亀井(芝)恒蔵(3)、後列右より伊福靖(4)、足立優(7)、柴田君(22)、清上昌孝(23)、鈴木隆文(23)、松浦義人(23)、宮本功(23)、藤井(今井)文信(4)の各氏】
文責一四期・伊福靖(経済連)

三十六年には和歌山県経済連に望まれ経済連の和歌山工場に転勤されました。当時の工場は、輸出用ミカンの缶詰製造、しょうゆ醸造を主な仕事とし、年間操業ロスが非常に大きかったといわれましたが、ここでは工場の年間フル操業を目指した研究責任を負って、パイン・オレンジなど濃縮ジュースのようなインスタントもの二五、六種類を開発され、工場の年間操業率をほぼ一〇〇%にこぎつけられた。

四十二年四月からは、工場次長となられ、また同年九月には科学技術士としての資格を獲得され、目下同工場技術関係の全責任を負って活躍されております。

〇〇〇、小原好則(6・二、〇〇〇〇)、
 梶谷勝正(7・実二、〇〇〇〇)、岡一郎
 (10・二、〇〇〇〇)、白石幸雄(15・一
 ・〇〇〇〇)、高知下村至(19・五〇〇〇再
 合計一、八〇〇〇)、渡合武久(9・二
 ・〇〇〇〇)、浜田茂徳(2・一、五〇〇〇
)、戸梶英夫(4・二、〇〇〇〇)、井沢
 康男(6・一、〇〇〇〇)、田中隆夫(7
 ・一、〇〇〇〇)、粟井隆章(7・一、五
 〇〇〇〇)、東京子(19・一、〇〇〇〇再合計
 二、〇〇〇〇)、福岡安ヶ平利秋(17・
 一、七〇〇〇)、佐賀小林康則(4・一
 ・〇〇〇〇再合計五、三〇〇〇)、原口豊
 治(8・一、〇〇〇〇再合計三、〇〇〇〇
)、佐々木正英(15・五〇〇〇再合計一、

五〇〇〇)、東島定美(通2・一、〇〇
 〇〇)、古竹信行(22・五〇〇〇再合計一、
 〇〇〇〇)、井手定治(4・一、〇〇〇〇再
 合計二、五〇〇〇)、鐘ヶ江一夫(通3
 ・五〇〇〇再合計一、五〇〇〇)、自松昭
 通3・五〇〇〇再合計一、五〇〇〇)、平野
 稔(通3・五〇〇〇再合計一、五〇〇〇)、
 永原ミヨ子(23・五〇〇〇再合計一、〇〇
 〇〇)、長崎菜田昭子(16・一、五〇〇〇再
 合計二、五〇〇〇)、熊本安達雅晴(20
 ・五、〇〇〇〇)、鹿児島中野重夫(11
 ・一、六〇〇〇)、沖縄宮城勝繁(16・一
 ・〇八三〇)、アメリカ三浦猛(2・一七、
 〇〇〇〇)。

農ゼミ関東ブロック大会

鯉淵学園で開かれる

十一月二十三、四日の連休日、関東一
 円の農学部系の学生約八十名を迎えて、
 研究発表と友情連帯を深める農学生を集
 めて開かれた。この大会は我々が現在直
 面している「農学と農業」というテーマ
 を取りあげ、講演、分科会、宿舍討論、
 映画と講演等色々な場において、いかに
 あるべきかを探求した。

鯉淵学生は学園の地理的位置の関係も
 手依って、考える事は社会の動きや政策
 と無関係に、自分の廻りの狭い事だけに
 終りやすい傾向を持っている。

他方東京の農学生は「土」や「農民の

心」を知らないで農政を論じている。

真の日本農業の発展は、この両者が一
 体とならなければ望めないという自覚
 を、お互いが得る事が大会の目的であっ
 たし、現に我々はその必要性を再確認し
 、新しい方向を見出した。

大会は成功に終わった。が、その陰には
 学園の協力、先輩方の力強い支援があっ
 たからで、鯉淵精神の勝利である事を感
 謝し、喜びたい。

なお、この大会の内容を一冊の本にまと
 めました。講演、討論等生きた証本とし
 て是非御入手下さい。(一部二百円、送
 料五十円、切手同封の上、茨城県東茨城
 郡内原町鯉淵学園関東ブロック大会実行
 委員会・加藤成一宛)

事務局だより

一、会費納入のお願い

九月末日における中間決算では、一般
 会計に三五六、六七二円の黒字がありま
 したが、その後十一月に入って名簿印刷
 費四〇八、〇〇〇円、名簿送料一九、八
 五〇円、常任委員会諸費二七、四九〇円
 (二回分・大部分旅費)、農ゼミ関東ブ
 ロック大会(学園において開催)助成金
 二〇、〇〇〇円と二カ月の短期間に四七
 五、三四〇円余を支出することとなり、
 大きな赤字を背負うことになりました。
 支払い不足金は、会長・常任委員会のお
 ゆるしをいただき、特別会計(基本金)
 より借入れ、支払いましたが、前年度か
 らの借入れ合計金額は、三〇四、〇〇〇円に達
 し、一般会計年の瀬をひかえて青息吐息
 の状態にあります。
 すぐまた会報印刷費三五、〇〇〇円、
 会報発送アルバイト費約二〇、〇〇〇円
 会報送料四五、〇〇〇円合計一〇万円の
 支出をひかえております。

中間報告の会費収入は、四十五年度以
 降の分を含み、これを四十三、四十四年
 度に限りてみますと、その全会員数に対
 する納入割合は二六%と極めて低調な状
 態にあります。

昨年の同窓会大会で、会費は年二〇〇
 円から五〇〇円に改正されました。年額
 五〇〇円二年分一、〇〇〇円は、これま
 での会員に対するサービス、活動内容に

照らし、高過ぎると思いますが、前記の
 ような実状が、大会をしようさせたの
 でありませう。事務局の愚知になって甚だ
 恐縮ですが、事務局の内状なども御賢察
 の上、御協力下さいますようお願い申し
 上げます。会費未納者には、送料会負担
 の振替用紙を同封致しました。この会報
 受取り次第、あとまわしにせずに直ちに
 お手続き下さい。

二、住所変更の連絡について

支部、一般会員、先生方、市町村役場
 などの御協力をいただき、なんとか会員
 名簿を発行致しましたが事務局で、はっ
 きりわかっている住所不明者が二十数名
 あり、それに潜在不明者を加えれば、な
 お相当数の住所不明者があるものと推察
 されます。御自分の住所はもちろん、知
 人の住所で誤まりに気付かれた方は、直
 ちにお知らせ下さい。また、今後住所変
 更された時も必ず御連絡下さいませよう
 お願い致します。

▼後記▲

次回会報発行は六月一日の予定です。会
 としては、十一月三日開催の同窓会大会
 案内記事が予定されます。さらに会員消
 息、学生活動等のスペースを増やしたい
 と思っております。会員諸氏の御投稿を
 お願い致します。

本年も、いよいよおしつまり、諸氏に
 はそれぞれ御多忙の毎日をお送りのこと
 と存じます。ますます向寒の節でもあり
 ます。御自愛專一に、よき新年をお迎え
 下さい。